

## 1. 教育の責任

- (1) 食物栄養学科教職課程【栄養教諭二種】に関する科目「教師論」  
（1年次前期必修1単位）
- (2) 食物栄養学科教職課程【栄養教諭二種】に関する科目「教職実践演習」  
（2年次後期必修2単位）
- (3) 食物栄養学科教職課程【栄養教諭二種】に関する科目「教育課程論」  
（2年次後期必修2単位）
- (4) 食物栄養学科教職課程【栄養教諭二種】に関する科目「栄養教育実習」  
（2年次前期必修2単位）
- (5) 経営法学科教職課程【中学校教諭一種，高等学校教諭一種】に関する科目「教育課程論」（1年次後期必修2単位）
- (6) 経営法学科教職課程【中学校教諭一種，高等学校教諭一種】に関する科目「教育方法論」（2年次後期必修2単位）
- (7) 授業以外での学生指導
  - ・入学前サポートプログラム「天声人語の書き写しノート」指導
  - ・リメディアル講座アカデミックライティング指導
  - ・学生相談、学生相談室・健康管理室合同会議運営
  - ・小論文指導（入試、編入学）

## 2. 教育の理念と目的

- (1) 教職志望の学生に対する「教育の理念と目的」は、「教育基本法」等に基づき、今日的な教育の動向を踏まえ、栄養教諭の資格取得者として、「豊かな人間性」「実践的な専門性」「開かれた社会性」を發揮しながら、児童生徒・家庭・地域に向けて「建学の精神」を生かした食育の指導・広報活動ができるような学生の育成である。
- (2) 栄養教諭、中学校・高等学校教諭として、新学習指導要領改定の基本方針に基づいた「社会に開かれた教育課程」「育成を目指す資質・能力の明確化」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」「カリキュラム・マネジメントの推進」「教育方法と教育技術の実践力の育成」等を実践できる学生の育成を目指した。

## 3. 教育の方法

- (1) 短大1年「教師論」では  
教職の社会的な意義，今日の栄養教諭に求められる役割，資質・能力や職務，児童生徒の心に寄り添う多面的な理解等，教員としての全般的な仕事について理解を図っている。これらの中で，特に使命感・責任感・教育的愛情の芽を培うことについて，醸成を図っている。
  - ・「教育基本法，食育基本法」などから，食育の現状と課題，栄養教諭の役割と職務内容を学ぶ。
  - ・テキスト「食に関する指導の手引」から，専門家としての教師，授業づくりの基本などを学ぶ。
  - ・食育指導案の実践例から，より具体的な授業づくりを学ぶ。
  - ・図書資料などから，実際の授業に活用できる資料作成を実践する。
- (2) 短大2年「教職実践演習」「栄養教育実習」では
  - ・教育実習記録を用いて，授業チェックシートで授業を振り返ることにより，自己課題をまとめる。
  - ・自己課題を基に，テーマを選んで「給食だより」「給食献立表」「食育指導案」など

を作成する。

- ・栄養教育実習に向けた指導案を検討・作成する。

(3) 短大2年「教育課程論」では

教職の社会的な意義，今日の教師に求められる役割，資質・能力や職務，生徒の心に寄り添う多面的な理解等，教員としての全般的な仕事について理解を図るとともに，教育課程の法的定義から，学習指導要領を用いて教育課程の実際までを学ぶ。

- ・資料「ワークで学ぶ教育課程論」から，教育課程の法的定義などの基礎を学ぶ。
- ・小学校学習指導要領から，小学校における教育課程の実際を学ぶ。
- ・中学校学習指導要領から，中学校における教育課程の実際を学ぶ。

(4) 学院大1年「教育課程論」では

教職の社会的な意義，今日の教師に求められる役割，資質・能力や職務，生徒の心に寄り添う多面的な理解等，教員としての全般的な仕事について理解を図るとともに，教育課程の法的定義から，学習指導要領を用いて教育課程の実際までを学ぶ。

- ・資料「ワークで学ぶ教育課程論」から，教育課程の法的定義などの基礎を学ぶ。
- ・中学校学習指導要領から，中学校における教育課程の実際を学ぶ。
- ・高等学校学習指導要領から，高等学校における教育課程の実際を学ぶ。

(5) 学院大2年「教育方法論」では

学習指導要領の改訂に伴い，「カリキュラム・マネジメント」，「アクティブ・ラーニング」の取組をも含めた授業力・教科指導力の育成を目指し，教育方法概論，教育方法の諸理論，授業における諸スキル，教育メディアの活用，指導や学習における組織の在り方，教育評価を学ぶ。

- ・学校教育における教育方法と歴史を学ぶ。
- ・授業における教師の役割と指導技術について学ぶ。
- ・教育メディアとその活用について学ぶ。
- ・教育における評価について学ぶ。
- ・授業実践に向けた授業計画，評価計画等について学ぶ。

(6) 入学前サポートプログラム「天声人語の書き写しノート」指導では

学習の基礎となる「読む力」「書く力」の向上を図る。

- ・課題文章「天声人語」を読んで，書き写し，単語の意味調べ，要約・意見文の作業を行う。

(7) リメディアル講座アカデミックライティング指導では

大学・短大で必要になる日本語表現力の向上を図る。

- ・敬語，文法，語彙・言葉の意味，表記・漢字，総合問題の再学習。
- ・日本語検定3級程度の実力判定テストへの挑戦。

(8) 学生相談では

- ・毎月学生相談室と健康管理室の合同会議（総勢12名）を開催し，両室利用状況の共通理解を図り，課題や傾向などに対応する。
- ・経営法学部全学生の出席率や取得・履修単位数のデータを基に呼び出し指導や面談を行う。
- ・随時学生の申し出による相談を行い，生活全般の支援を行う。
- ・経営法学部の要支援学生，短大学院大随時学習・生活支援や編入試験のための小論文指導を行う。

(相談件数のべ 418件，相談実人数 266件 2023.4 現在)

(9) 小論文指導では

- ・指定校推薦受験希望者に向けた小論文対策講座を行う。

- ・編入学希望者への小論文指導を行う。

#### 4. 評価と成果

##### (1) 短大1年「教師論」では

教職の社会的な意義、今日の栄養教諭に求められる役割、資質・能力や職務、児童生徒の心に寄り添う多面的な理解等、教員としての全般的な仕事についての中で、特に使命感・責任感・教育的愛情の芽を培うことについて、醸成を図った。

次の点を評価と成果とする。

- ・「食育基本法」から、食育の現状と課題、栄養教諭の役割と職務内容を学ぶことができた。
- ・テキスト「食に関する指導の手引」から、専門家としての教師、授業づくりの基本などを学ぶことができた。
- ・食育指導案の実践例から、より具体的な授業づくりを学ぶことができた。
- ・図書資料などから、実際の授業に活用できる資料作成を実践することができた。

◇「授業改善アンケート」結果 2022. 「総合的に判断すると良い授業」 5.0

##### (2) 短大2年「教職実践演習」「栄養教育実習」では

- ・教育実習記録を用いて、授業チェックシートで授業を振り返ることにより、自己課題をまとめることができた。
- ・自己課題を基に、「給食だより」「給食献立表」「食育指導案」などを作成することができた。
- ・指導案を検討・作成し、有意義な教育実習を終えることができた。

##### (3) 短大2年「教育課程論」では

教職の社会的な意義、今日の教師に求められる役割、資質・能力や職務、生徒の心に寄り添う多面的な理解等、教員としての全般的な仕事について理解を図るとともに、教育課程の法的定義から、学習指導要領を用いて教育課程の実際までの理解を図った。

次の点を評価と成果とする。

- ・資料「ワークで学ぶ教育課程論」から、教育課程の法的定義などの基礎を学ぶことができた。
- ・小学校学習指導要領から、小学校における教育課程の実際を学ぶことができた。
- ・中学校学習指導要領から、中学校における教育課程の実際を学ぶことができた。

◇「授業改善アンケート」結果 2022. 「総合的に判断すると良い授業か」 4.0

##### (4) 学院大1年「教育課程論」では

教職の社会的な意義、今日の教師に求められる役割、資質・能力や職務、生徒の心に寄り添う多面的な理解等、教員としての全般的な仕事について理解を図るとともに、教育課程の法的定義から、学習指導要領を用いて教育課程の実際までの理解を図った。

次の点を評価と成果とする。

- ・資料「ワークで学ぶ教育課程論」から、教育課程の法的定義などの基礎を学ぶことができた。
- ・中学校学習指導要領から、中学校における教育課程の実際を学ぶことができた。
- ・高等学校学習指導要領から、高等学校における教育課程の実際を学ぶことができた。

##### (5) 「教育方法論」では

新学習指導要領、「カリキュラム・マネジメント」、「アクティブ・ラーニング」の取組をも含めた授業力・教科指導力の育成を目指し、教育方法概論、教育方法の諸理論、授業における諸スキル、教育メディアの活用、指導や学習における組織の在り方、教育評価の理解・実践力の育成を図った。

次の点を評価と成果とする。

- ・学校教育における教育方法と歴史を学ぶことができた。
  - ・授業における教師の役割と指導技術について学ぶことができた。
  - ・教育メディアとその活用について学ぶことができた。
  - ・教育における評価について学ぶことができた。
  - ・授業実戦に向けた授業計画，評価計画等について学ぶことができた。
- (5) 入学前サポートプログラム「天声人語の書き写しノート」指導では文章の要約や小論文の作成によって，学習の基礎となる「読む力」「書く力」の向上を図ることができた。
- (6) リメディアル講座アカデミックライティングでは内容ごとの指導により，大学・短大で必要になる日本語表現力の向上を図ることができた。
- ◇「日本語検定3級程度実力判定テスト」結果 2022.6  
受検者全体 得点率 67%以上 3名 (43%)  
看護学部受検者 7名
- ◇分野別理解度 2022.6  
敬語 67% 文法 83% 語彙 52% 言葉の意味 50%  
表記 59% 漢字 93% 総合問題 80%
- (7) 学生相談では要支援学生（2022.12時点）経法1年 28名，経法2年 32名，経法3年 32名，経法4年 12名，その他9名を中心に継続的に学習支援を行った。また，随時学生相談に応じ，学生相談チームとして学習支援・進路支援・生活支援をのべ418件行った。（2023.4現在）
- (8) 小論文指導では
- ・7/2,8/8,11/8 指定校推薦受験希望者を対象に，小論文対策講座を行った。
  - ・12～1月編入学希望者を対象に，小論文指導を行った。

## 5. 今後の目標

授業の理解度を向上させるため，次の点に工夫・配慮する。

- ・学習内容の理解を深めるため，毎時間使用している学習プリントをより取組やすく，分かりやすくする。
- ・学習プリントを毎時間提出させ，学生の理解度・到達度等を把握し，指導に役立てる。
- ・授業内で，読む，書く，発表する，話し合う活動を取り入れる。
- ・導入で，一般常識問題（教員採用試験の過去問題）を行う。
- ・終末で，学習を振り返る活動を取り入れる。
- ・教え合い，話し合う活動により，学習に取り組む雰囲気をつくる。
- ・学習規律を守らせ，高まり合う学習集団づくりを進める。

## 6. 根拠資料

- ① シラバス，ガイダンス資料
- ② 前期末レポート（前期試験），後期末レポート（後期試験）
- ③ 「教育課程論」授業レポート，「教育実践演習」授業レポート
- ④ 「教師論」授業レポート
- ⑤ 「教育方法論」提出レポート
- ⑥ 「学生相談室・健康管理室合同会議資料」  
「学生相談記録」